



10月の歳時記(神無月/October)

秋の味覚が楽しみな季節!



★ 衣替え

「衣替え」は、10月1日を目安に夏服から冬服へ、6月1日を目安に冬服から夏服へと替える風習です。

衣替えの由来は、平安時代に中国から伝わった習わしで、宮中行事として年2回衣を替えるようになり、最初は「更衣」と呼ばれていましたが、女官の役職名だったため、「衣替え」となった由。

旧暦①4/1~9/末「夏服」 ②10/1~3/末「冬服」江戸時代になると着物の種類が増えたため、気候に合わせて4回衣替えをするよう武家社会で定められ庶民に広がっていったとされています。

旧暦①4/1~5/4「裏地付の袷」 ②5/5~8/末「裏地無の単衣」 ③9/1~9/8「裏地付の袷」 ④9/9~3/末「綿入り」となっていました。

明治時代、洋服が広まり、役人や軍人などが制服を着用、暦も新暦に変わり、夏服と冬服を年に2回替えるようになりました。そして、学校や家庭にも衣替えの意識が浸透し、現在に至っています。①6/1~9/末「夏服」、②10/1~5/末「冬服」(目安)衣替えには日本の感性が息づいており、衣替えを通じて衣服の季節感を養ったり、衣服の手入れ・管理・整理整頓のしかたを身につけたりしてきました。暮らしの行事は季節の巡りとともに繰り返されるので、子ども達にとっては、大変意義のある「行事育」でもあるのです。今は合理的な収納のおかげで、服の入れ替えをしない家庭もあります。また、エアコンが整っているのも、1年中同じような格好の方もいます。しかし、衣替えには日本人が育んできた季節感や文化があるということを、忘れないでいて欲しいと思います。地球温暖化が進み、季節感がうすれ「衣替え」が消滅する危機感さえ感じる今日この頃です。

★ こよみ: 衣替え(1)、寒露(8)、スポーツの日(9)、神嘗祭(17)、霜降(24)、十三夜(27)

I 全国労働衛生週間(10月1日~7日)

目指そうよ二刀流 ころとからだの健康職場



自分で整える『ころとからだのバランス』、みんなで整える『職場の環境』!

重点活動(抜粋): ①治療と仕事の両立支援 ②職場メンタルヘルス対策

③過重労働による健康障害防止 ④転倒・腰痛災害の予防 ⑤化学物質による健康障害の防止

令和4年業務上疾病発生状況(4日以上休業/厚労省)

全産業: 9, 506人(コロナ除外) ⇒ 保健衛生業(2,537)、商業広告(1,733)、製造業(1,535)

疾病別: ①負傷に起因(全産業7,081/製造業965) ⇒ 腰痛(5,959/965)

②異常温度(1,028/218) ⇒ 熱中症(827/145) ③化学物質起因(255/119)

④手指腕脛骨症候群(218/72) ⑧精神疾患(74/10) ⑨脳心疾患(43/2)

定期健診: 全国13,237千人/茨城288千人 ⇒ 有所見者・全国7,698千人(58%)/茨城174千人(60%)

製造業: 全国4,314千人 ⇒ 有所見者・全国2,449千人(57%)

所見: ①血中脂質(32%) ②血圧(18%) ③肝機能(16%) ④血糖(13%) ⑤心電図(11%)

鹿嶋管内の全国平均より多い所見 ⇒ 聴力低下、高血圧、肝機能異常

当社(2023/春): 受診278人 ⇒ 所見無17人(6%)/要経過観察115人(41%)/再検査・要治療104人(37%)

高齢化、食生活、運動不足が要因であり、生活習慣の改善が強く求められている。

II トピックス

当社が神栖市社協機関紙『ボラマガ』に『企業の社会貢献』で掲載される!

当社の貢献は、2016年12月正月用にと切り餅140袋を、神栖市社会福祉協議会を通じて市内施設に寄贈したことから始まり、毎年夏には教材や備品、冬にはXmasプレゼント(菓子)を旭新運送さんの協賛を得て行っております。会社方針「社会貢献」に基づくものであり、施設のお子さんたちに喜んで頂けお役に立つことが事が何より。15回を重ね今後も継続してまいります。

(神栖市社協/ボランティアセンターマガジン令和5年8月号に掲載)



慣れるなやめるな忘れるな みんなで決めた作業手順

ころとゆとり からだに余裕 みんなでつくる 健康職場

ご安全に!